

歯科コラム《矯正編》

Vol.1：歯科矯正って何のため？ その原因は？

むし歯予防の概念は、この近年着実に定着してきており、文部科学省の調査によると、12歳児の一人平均のむし歯本数は、1989年の4.30本から、2013年には1.05本に減少、むし歯のある子の割合も、90%超から半分以下の40%台にまで減少しています。

その反面、歯の矯正を必要とする子供たちは年々増加傾向にあり、かつては中学・高校生で多かった治療年齢が、最近ではちょうど前歯が生え変わる小学校2～3年生頃から始めるケースも増えてきています。

歯科矯正とは、歯の移動やアゴの成長コントロールをすることで、審美的かつ機能的なお口の健康増進をはかる歯科医療のことであり、その適用時期は乳幼児期～成人期と幅広いのも特徴のひとつです。

歯科矯正の目標の一つである「正しい咬み合わせ」を決める2大要素は、①歯のポジション（位置）、そして②歯のフォルム（形態）です。つまり、歯が1本も欠けずに生え揃っていても、上下の歯がきちんと「かみ合う（＝咬合）」ように並んでいなければ、食べ物をしっかり咀嚼（そしゃく）することが出来ません。また、でこぼこ（＝叢生（そうせい））の歯ならばブラッシングが困難になり、むし歯・歯周病などのリスクを高める結果となります。

上記の2大要素のうち「歯のポジション」を整えるのが、歯科矯正治療ということになります。

ところで、厚生労働省から、10歳児の約12%に永久歯の先天欠如（歯が生まれつき足りない）がみられるというデータが出されました。

12%という数字は、なんと10人に1人強にあたります。小学校のひとクラスに3～4人は永久歯が「生えてこない」部位がある、という事実。こういった事も、歯科矯正の必要性を増加させている要因と言えます。

一方、8020（満80歳で20本以上の歯を残そうという厚生労働省および

歯科医師会の運動)を達成した方々の統計調査から、受け口(反対咬合)や開咬(前歯部が開いた咬合状態)が皆無であったというデータも出てきました。つまり、前歯と奥歯がバランス良く使えない咬み合わせは、生涯にわたり健康な歯を残すことが非常に困難である、という事が分かってきました。

これらの事を踏まえ、本コラムでは歯科矯正についての「なぜ?」「どうして?」を、数回にわたって特集・解説していきたいと思えます。

医療法人社団オーラルデザイン
オーラルデザイン下北沢・矯正歯科
院長(歯学博士)
任 剛一
TEL 03-6303-0061
URL: www.od-kyousei.com
MAIL: info@od-kyousei.com